

平成 29 年 3 月 7 日

各 位

上場会社名 株式会社 郷鉄工所
代表者名 代表取締役社長 林 直樹
(コード番号 6397)
問合せ先責任者 常務執行役員 若山 浩人
(TEL. 052-586-1123)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 28 年 1 月 14 日に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する当期 純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-----------------------------|--------|--------|--------|-------------------------|-----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) | 3,666 | △842 | △1,024 | △953 | △60.29 |
| 今回修正予想 (B) | 2,645 | △1,070 | △1,404 | △220 | △15.10 |
| 増減額 (B)－(A) | △1,021 | △228 | △380 | 733 | |
| 増減率 (%) | △27.9 | — | — | — | |
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期) | 3,831 | △699 | △751 | △903 | △74.62 |

平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-----------------------------|--------|--------|-------|-----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) | 3,616 | △1,014 | △943 | △59.66 |
| 今回修正予想 (B) | 2,605 | △1,385 | △201 | △13.79 |
| 増減額 (B)－(A) | △1,011 | △371 | 742 | |
| 増減率 (%) | △28.0 | — | — | |
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期) | 3,790 | △751 | △913 | △75.44 |

修正の理由

◎売上高の減少の主な要因

橋梁鉄構及び水処理装置部門におきまして、水処理装置の工期の始期のずれにより約100百万円、入札による案件数の低下及び価格競争により受注できなかった案件が増加した事で約220百万円の減少、その他の機械部門におきまして、特殊破碎機等の失注により約280百万円の減少、環境装置部門におきまして、環境向け装置の失注により約300百万円の減少、その他部門におきまして失注により約100百万円の減少、総額で約1,000百万円の減少見込みとしております。これらの多くの失注は、当社が債務超過であることが大きな要因となっております。

◎営業利益及び経常利益の減少の主な要因

○売上高の減少に伴い売上総利益約100百万円の減少を見込んでおります。

○次の貸倒引当金の繰入による約103百万円の減少を見込んでおります。

- ・太陽光発電設備工事で既に売上済みの売掛債権につきまして回収が滞っており現在弁護士と相談中ではありますが、回収が不確実なことにより約42百万円を第3四半期で計上いたしました。
- ・株式会社LUXRESインベストメントへ平成28年11月8日に23百万円及び平成28年12月16日に38百万円を貸し付けておりますが、現時点で3月中に回収予定ではあるものの、回収が不確実なことにより第3四半期で61百万円を計上いたしました。詳細は、本日公表の「営業外費用（貸倒引当金繰入額）及び特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせ」をご参照下さい。

○次の費用計上による約158百万円の減少を見込んでおります。

- ・研究開発費として非常用ガス発電機のデモ機の製作費用約24百万円を第3四半期で計上いたしました。
- ・固定資産の一部売却による仲介手数料34百万円を第4四半期で計上いたします。
- ・資金調達による金融費用として約80百万円（第3四半期の増加約30百万円、第4四半期の見込約50百万円）を見込んでおります。
- ・その他約20百万円を第4四半期で見込んでおります。

◎親会社株主に帰属する当期純利益（単体：当期純利益）の変動（差引増加）の主な要因

上記営業利益及び経常利益の状況に加えて、次の増減要因により差引約733百万円増加する見込みです。

- ・平成29年2月24日に公表しました「固定資産の一部譲渡及び一部賃貸契約の締結並びに特別利益の計上に関するお知らせ」に記載しております譲渡益1,372百万円を第3四半期に計上いたしました。
- ・当該特別利益を計上したことによる法人税等の約90百万円増加を見込んでおります。
- ・その他に、当社の現状から機械・構築物等の資産に関して減損損失約169百万円を見込んでおります。詳細は、本日公表の「営業外費用（貸倒引当金繰入額）及び特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせ」をご参照下さい。

上記業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値とは異なる可能性があります。

以 上